



ヒイラギ (柊)

晩秋から初冬にかけて、ヒイラギの白い小さな花は、まるで寒さを避けるように固まって咲きます。

日本の山野に広く生育する常緑樹ですが、一般的には庭木として植えられることが多く、若木のうちは葉のふちに刺とげがあるのが特長です。そのため、葉に触ると痛い(古訓で「疼いたぐ」といふ)ということがヒイラギの語源とされています。

刺のある葉は、クリスマスの飾り付けに利用されているのをよく目にしますが、日本では節分の夜、ヒイラギの枝をイワシの頭と共に門口にさして邪気を払うという風習もあります。

「ひいらぎの白き小花の咲くときに

いつとしもなき冬は来むかう」

齊藤茂吉